

きんもくせい

令和7年 学校教育だより

May **5** 第365号

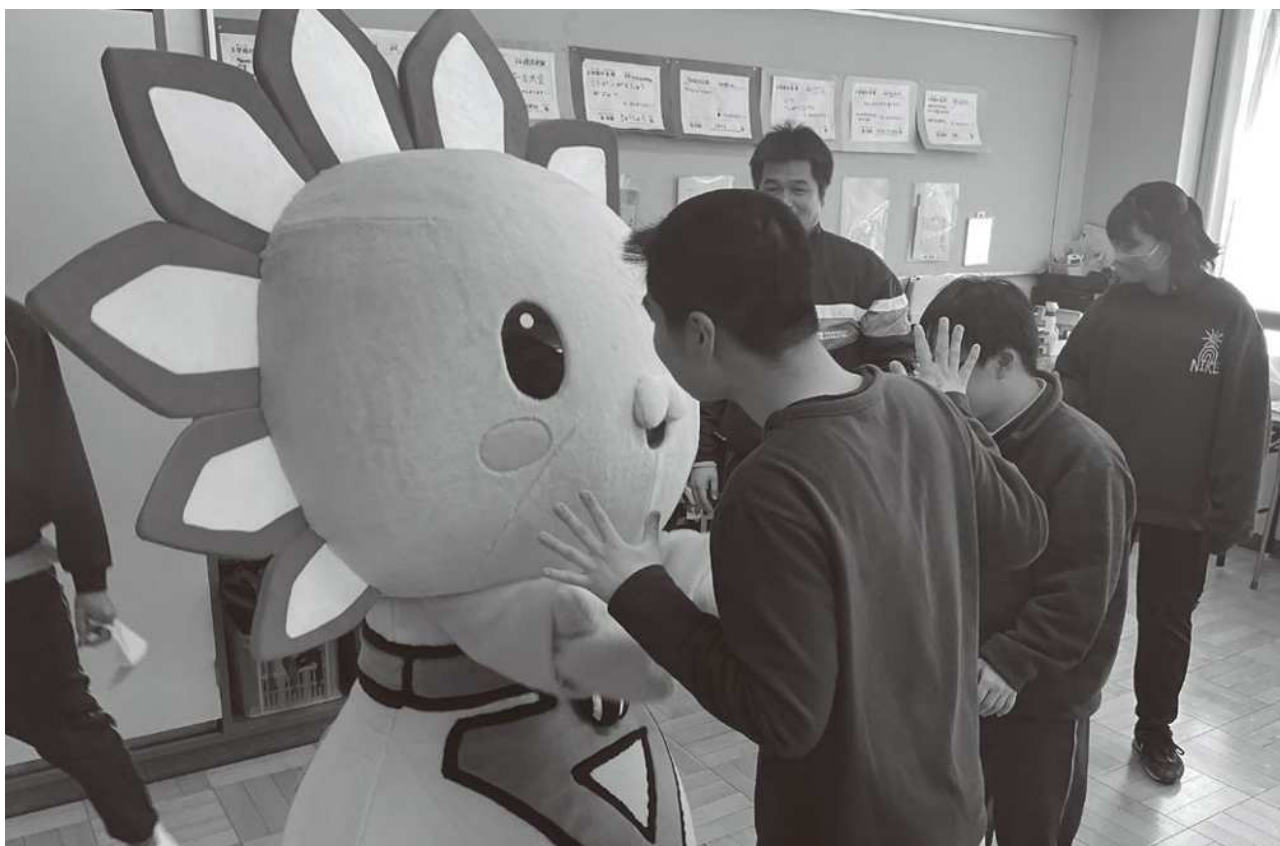
(年4回発行)

編集・きんもくせい編集委員会

発行・埼玉県富士見市教育委員会

電話・049-251-2711(内線623)

編集目標 学びあい 人がつながり 一人ひとりが輝く 富士見の教育



富士見特別支援学校マスコットキャラクター「ひまりん」

写真提供／富士見特別支援学校

時間

水谷中学校 三年

岡 大晴

時間はすすむ

まだ見ぬ未来のために

時間はすすむ

過去という場をつくるために

人の時間は有限だ

時間がたつにつれ

年老いていく

だからといって

過去には戻れない

一秒一秒を強く生きる

くじけず前を向いて

時間とすすむ

それが

大切なのではないだろうか

ので、燃費よく走り続けるためにはどのようにモーターを作動させればよいかというプログラムの考えられた。

=みずほ台小学校

わかる授業

小学校におけるSTEM ～段階的アプローチによる

特別支援教育

「特別」ではない特別支援教育

諏訪小学校 教諭 工藤 藍

「特別支援教育」と言われてどんなイメージでしょうか。「特別な教育？」または「通常とは違う教育？」

私は本校の特別支援学級「なの花」を担当して二年目になります。私に「特別支援教育」の意味を教えてくださいました。なの花にいる子どもたちです。彼らは決して「特別」ではありません。自分たちで課題を見付け学習する、分かる・できる喜

びをもつ、友だちとのかかわりを楽しみ、時に悩む姿は「通常学級」の子どもたちと何も変わりません。保護者の思いも「通常学級」と同じです。元気で、友だちと仲良く、楽しんで学校生活を送ってほしい。こうした願いを誰かがもっています。特別支援学級は、学びの場の選択肢の一つに過ぎないのです。

「多様性」の時代、学び方も多様です。本校でも、通常学級、

【五年生】製作の過程や試作ができた時点で、より効率的な動作を追求したり、この原理など力学的な考察をさせてパーツを選び直したりした。プログラミングにおいても、同じ処理を繰り返す場合は反復を使ったり、条件分岐を意識したりした。ブロックだけでなく、段ボールなど加工しやすいものと組み合わせたり、「えんぴつプログラマ」に挑戦したりする児童もいた。

【六年生】全員が「えんぴつプログラマ」の仕組みや動作について学習し、これまで作ってきたロボットを振り返りながら、繰り返しや条件分岐などの制御を生かしてプログラミング思考



「WeDo 2.0 (レゴ) でのプログラミングの様子」

を高めていった。六年生ともなると、思い通りに作動しない友達のプロگرامを一緒に確認しながらアドバイスする光景もごく自然になってきた。

特別支援学級、通級指導教室、日本語指導教室、日本語指導員・学習支援員の個別対応など、様々な学び方があり、それぞれの学びの場を子どもたちは自然に受け入れています。

私たちは誰もが得意・不得意があります。「普通」な子は誰一人いません。誰もが番輝ける学びの場を選ぶことができ、それを自然なこととして受け入れることができる、「特別」ではない特別支援教育を、令和のスタンダードとして学校全体で推進していきたいと思っています。

◆現実世界に即した「リアルな提案」へ

五年生の授業で、あるグループは畑を荒らす害獣を想定し、近づくものをセンサーが感知するとモーターが回り、チェーンを振り回して動物を追い払うプログラムを組んでいた。別のグループは、弁当の製造過程での食品ロスを防ぐため、発注数に大きな変化があった場合を想定し、生産ラインを止める工夫をしていた。

これらは、想定した世界の中でイメージをふくらませ、「こんなものがあつたらいいな」を見出すことから生まれてきた思考である。今後は、実際に害獣対策や食品ロスの工夫をしている方に話を伺うなど、現実世界での課題と向き合わせる段階に進ませたい。

おわりに

「アイデアを出し合うのが楽しい」「解決法を思いついたとき



「えんぴつプログラマの校内研修の様子」

が気持ちいい」と表現するなど、子どもたちも問題解決マトリクス7・9の部分と学習の面白さを実感している。一方、子どもたちを取り巻く世界は、ゲームや動画など何でもレレティング（年齢制限）されており、授業にもどのようなフィルターがかかっているのか敏感である。発達の段階に配慮しつつ地域の協力などを得ながら、可能な範囲で実社会をリアルに探究させることで、学習意欲のさらなる向上を図っていききたい。

指導・講評

辻 庸一

元富士見市立みずほ台小学校長

鹿山教諭は理科主任や学校ファームなどを担当しながら、総合的な学習の時間のカリキュラムマネジメントをはじめ、プログラミングの講師を務めたり、マニュアル整備を進めたりするなど、本校STEM教育の立役者となっています。この二年間で各学年の実践も進み、「自分の考えを伝えることができる」と自己評価する児童が徐々に増えるなど手ごたえを感じています。今後もSTEM教育を通じて、依頼者の思いに寄り添いながら工夫改善を図っていく活動を充実させ、自己有用感や将来の夢をもった児童の育成を進めてまいります。

学年委員になって 保護者になって

関沢小学校 保護者 佐藤 茉耶

「学年委員になり思い出DVDを制作したい。」期待と不安を抱えて立候補したのを覚えています。

コロナで行事が制限され悔しい思いをしてきた低学年。制限が解除された五年生の時、「運動会ってこんなに楽しいの?」と息子からの一言が心残りでもあり、今回のDVD制作に強い思いがありました。学校へ相談し、共感してくださったことがとても嬉しかったです。学校の教育活動に支障が出ない範囲で撮影が進む中、途中で何度も壁にぶつかり諦めようかと葛藤の日々もありましたが、学年委員の皆さんの協力で無事完成したことにホッとしています。

撮影を機に多く六年生の子どもたちとかわる中で、会えば声をかけてくれたり名前を覚えてくれたりと、私も学校へ行くのが楽しみでした。先生方も率先して協力してくださり、同じ目線で向き合ってくれたことにとても感謝しています。

私も関沢小学校の卒業生。今



では我が子を通じて母校にかかわることを誇りに思います。これから先、夢と希望をもちながらいろいろな経験をしていく中で、子どもたちがDVDを振り返り少しでも前向きな気持ちになってくれると嬉しいです。小・中学校で出会う仲間が「一生もん!」そんな存在が近くにいるというのを忘れないでほしいです。

この一年間、学年委員として、保護者としてやりがいのある素敵な一年でした。

ピンク帽子のみんな、卒業おめでとう!

「自尊心を育てる宝もののファイル」

勝瀬小学校

学校教育は、単に知識を教えるだけでなく、子どもたちが自分の可能性を信じ、夢を追いかける力をはぐくむ場でもあります。現代の社会では、ますます多様化する価値観や情報にふれる中で、子どもたちが自分自身を見つめ直し、未来に向かって希望をもつことが非常に大切です。そんな中で本校は、「宝もののファイル」に取り組んでいます。目標や頑張ること、自分の

学校教育は、単に知識を教えるだけでなく、子どもたちが自分の可能性を信じ、夢を追いかける力をはぐくむ場でもあります。現代の社会では、ますます多様化する価値観や情報にふれる中で、子どもたちが自分自身を見つめ直し、未来に向かって希望をもつことが非常に大切です。そんな中で本校は、「宝もののファイル」に取り組んでいます。目標や頑張ること、自分の



り入れ、自己肯定感や自尊心を育てています。夢と希望をもつ子を育てる、それが勝瀬小学校で行っている「宝もののファイル」の取組です。

「楽しみな日々」

勝瀬中学校 保護者 勝山 祥

私には高校生から小学生まで三人の子どもがいます。父親になってから十七年になりました。小さい時と比較すると、親がすべきことは減り、自分の世界をもち始めた子どもたちを見守ることが多くなってきました。そこで気が付いたのですが、子どもが自分で決めて始めたことは集中し、よく続いているのです。いわゆる「やる気スイッチ」はやはり自分で見

私には高校生から小学生まで三人の子どもがいます。父親になってから十七年になりました。小さい時と比較すると、親がすべきことは減り、自分の世界をもち始めた子どもたちを見守ることが多くなってきました。そこで気が付いたのですが、子どもが自分で決めて始めたことは集中し、よく続いているのです。いわゆる「やる気スイッチ」はやはり自分で見

はぐくむ
～学校・家庭・地域から～

に、部活に、学校行事と忙しいように感じますが人生の中で、これだけ一生懸命に過ごせる時間もまた幸せであると思います。中学生の時に担任の先生から「脳が一番記憶しやすいのは、十四歳前後だからなんでも覚えらるる今を大切にしない」と言われたことを思い出します。確かに今、何かを覚えるのはとても苦勞しますが、中学生の頃に覚えたものは今でもよく頭に残っています。地中海性気候や、慣性の法則など今ではあまり使わない言葉も、懐か

しい友人の顔と共に思い出されます。この時間をぜひ大切にしたいと願いつつ、学校の様子を聞くのが楽しみな毎日です。



「未来を切り拓く力」

針ヶ谷小学校

本校では、子どもたちの「未来を切り拓く力」をはぐくむために学校研究に取り組んでいます。これから子どもたちは、予測困難で複雑な社会へと飛び込んでいきます。そのような社会・未来を切り拓いていくうえで子どもたちが自身のことをよく理解し、自己選択・自己決定していく力は欠かせないものであると考えています。

本校では主にUDL（学び

のユニバーサルデザイン）の考え方を取り入れ、教科を問わず、授業改善に取り組んでいます。私たち教員は、「どう教えるか」という考え方から「子どもたちがどう学ぶか」という考え方へ転換して一年間、授業を見直してきました。その結果、本校の子どもたちは主体的に学習に向かうことができるようになってきました。

今後子どもたちが「学びたい」という思いを強くもち、自



ら学びを進められるような学校教育を推進していきます。

教育課題特集

夢ときぼうを

「子どもたちとの出会い、そしてともに成長」

FUJIMIKIDS 監督 小原 日登美

二〇二二年ロンドンオリンピックをきっかけに、「子どもたちにレスリングを経験させてあげたい。」沢山の方々のそんな純粋な気持ちから、地域の子どもたちを対象に「FUJIMIKIDSレスリング教室」が二〇一八年に設立されました。

みんなレスリングマットを見たり、触ったりした経験もなくまずはマットに驚くということが練習のスタートでした。

また、レスリングは専用のシューズを履いて競技を行います

が、当初は裸足で練習を始めました。裸足でマットの上を歩いそうに走り回っている姿が、昨日のことのように思い出されます。

そんな子どもたちも今では試合に参加するまでに成長しました。

レスリングは対一の勝負です。一人でマットに上がり、対戦相手を目の前にした時の緊張や恐怖はどれほどのものか。

たくさん試合を経験した私からすると、その時点で子どもたちの勇気を褒めてあげたいいつも思います。

レスリングは握手で始まり、審判、対戦相手とコーチに握手をして試合が終わります。もちろん勝つことは、競技を続けて

いく中で大切なことだと思っています。

しかし、それ以上に対戦相手に敬意をもち、負けて挫折を知り、勝つて努力の大切さを実感することなど、人生において大切にすべき道徳心をはぐくめることがこの競技の最たる魅力であると思っています。

さて、教室が設立されて六年が経ち、一期生の子どもたちは高校生になりました。今では、後輩たちの面倒を見てくれることがとても頼もしくもあり嬉しくもあり、レスリングを通して成長している子どもたちを見ていると感慨深いものがあります。これからも富士見市の子どもたちと共に私自身も成長して行きたいと思っています。





北風マラソン

今年度は初めての校庭でのペース走でした。寒さに負けず、みんな目標達成に向けて頑張って走りました。

南畑小

春の優しい日差しに見守られ、校庭の花々が色鮮やかに咲く中、令和七年度がスタートしました。

大きな期待や不安を胸に進学や進級した子どもたち。元氣なあいさつが学校に光を与え、少し大人になった上級生が下級生のお手本となるように進んで取り組もうとする姿がとてもたくましく、そして微笑ましく映ります。

そんな子どもたちが安全安心な環境の下で活動に励み、子どもたちの可能性を十分に引き出し、伸ばすことができるように、私たち教職員も全力で支援していきます。

この学校TODAYでは、富士見市内の小・中・特別支援学校の特色ある活動の様子を紹介します。生き生きと活躍する子どもたちの姿をご覧ください。



つるせ台小

今日の先生は現役ラグビー選手！

オリンピック日本代表選手によるラグビー教室の開催。夢の実現に向けての体験談や上達へのコツなどを教えていただきました。



水谷中



PUSH講習（救命講習）

助けてもらう水中生から助けることができる水中生になるために、3年生が講習を受けました。



本郷中

幼稚園児と交流しています

毎年本校の3年生が家庭科の授業の一環で隣接するほんごう幼稚園に伺い、保育実習を行っています。元気な園児たちの笑顔に心が癒されます。

Ⅱ市教育相談室よりⅡ

教育相談室のご案内

お子さんの教育上の心配事は、どんなことでもお気軽にご相談ください。

「相談内容」

・「学校に行きたがらない」「就学先に不安がある」「発達が気になる」「言葉がはっきりとしない」など。専任教育相談員、スクールソーシャルワーカー等が対応します。

「相談方法」

・電話相談（匿名での相談も可）
・面接相談（電話で予約の上、実施）
・訪問・出張相談（公民館等や、ご自宅での相談も可）相談は無料です。

「教育支援センターあすなろ」

・登校できない状況にあるお子さんに対し、自立に向けた支援を行います。
・月々金の九時～十四時三十分

市教育相談室

・開室日：月々金。（祝・祭日を除く）
・受付時間：9：00～17：00

※令和7年5月31日まで

・所在地：上南畑1317

・TEL253・5313

※令和7年6月1日から

・所在地：ふじみ野東4丁目4番地1号
ふじみ野小学校内1Fに引っ越します。

・TEL257・5310



鶴瀬小

「投げるボールの速さにびっくり！」

大崎オーソルの選手の方々に来ていただき、4・5年生を対象にハンドボール教室を実施しました。選手の方々に、応援しています！



ふじみ野小

七輪を使って餅焼き体験

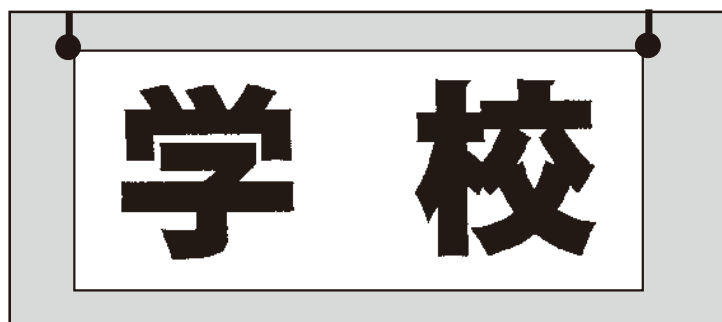
3年生の社会科の学習として昔の道具の七輪を使って餅を焼きました。なかなか火がつかず、火を起こすことの難しさを学びました。



富士見台中

朝から笑顔爆笑『台中あいさつ運動』

あいさつだけでは終わらない。ハイタッチで朝からみんなを笑顔にさせる天才たち。登校するみんなもノリノリでハイタッチ。最高！



水谷小

「自己肯定感を育むために」

毎日、チェックアウト（帰りの会）で、今日頑張ったことを振り返り、チェックアウトノートに書き留め、自分と向き合っています。



特別支援学校

「埼玉県特別支援学校バスケットボール大会」

体育の授業や昼休みを使って、練習を積み重ねてきました。大会当日は、もてる力を十二分に発揮し、力いっぱいプレーしました。

①②ともに、保護者の考えや思いは明確に伝えつつも、子どもが自分で決めることが大切です。また、日頃から、子どもと保護者との会話や、共通の趣味など、楽しみを共にする時間が多いほど、話し合いや子どもの自己決定は、スムーズになっていきます。

さらに、学校や地域の中に、周囲とのあたたかい関係や活躍の場があることで、SNS等が必要以上にやり続けることが減っていきます。そのため、家庭だけではなく、学校や地域の人々と、互いに理解、協力しながらお子さんを育てていくことも大切です。

SNS等のことでお困りの場合は、一緒に考えてまいりますので、教育相談室にもご相談ください。

Q「SNS、ネット、ゲームばかりで困っています」

A「SNSやインターネット、ゲーム（以下、SNS等）は、生活に欠かせないものとなっています。その一方で、日常生活に支障をきたす、やめようと思ってもやめられないなど、子どもの成長にとって心配な点もあります。

子どものSNS等については、次の点について配慮するとよいと考えます。

①あらかじめ、時間、場所、使い方、約束が守れなかった場合の対応とリトライの仕方などについて、子どもと保護者と話し合いながら決める。

②お手伝いや、家族の困らんなど、SNS等以外の体験活動を増やす。



教育委員会だより

○令和7年度教育行政方針

＜主な取組み＞

- ◆ 情報モラル教育の充実
- ◆ 通級指導教室を小学校2校に新設
- ◆ 敏捷性を高める教材の活用や縄チャレ推進による運動好きな児童生徒の育成
- ◆ 子どもたちの自尊感情を高める「富士見市いのちの授業⁷³⁵」の実践
- ◆ 学校における通信環境の拡充と児童生徒用端末の更新
- ◆ 計画的な図書購入による学校図書館蔵書の充実

全文は、市HP、各図書館等でご覧になれます。



○運動会(体育祭)・音楽会(合唱祭)等の日程

学校名	運動会・体育祭	予備日	音楽会 合唱祭
鶴瀬小学校	5月24日	5月25, 27日	11月1日
水谷小学校	5月24日	5月28日	11月1日
南畑小学校	5月24日	5月25, 27日	11月1日
関沢小学校	5月24日	5月28, 30日	11月8日
勝瀬小学校	11月1日	11月2, 6日	7月5日
水谷東小学校	11月1日	11月2, 4日	6月28日
諏訪小学校	11月1日	11月2, 6, 7日	9月27日
みずほ台小学校	5月31日	6月1, 3日	11月8日
針ヶ谷小学校	5月24日	5月27日	11月8日
ふじみ野小学校	5月31日	6月3日	11月1日
つるせ台小学校	10月18日	10月22, 23, 24日	12月6日
富士見台中学校	5月17日	5月20, 22日	10月21日
本郷中学校	5月17日	5月20, 22日	10月20日
東中学校	5月17日	5月19, 20日	10月17日
西中学校	5月17日	5月20, 22日	10月23日
勝瀬中学校	5月17日	5月20, 22日	11月6日
水谷中学校	5月17日	5月19, 20日	10月22日
富士見特別支援学校	5月23日中/高 5月30日 小	5月29日中/高 6月6日 小	【ふじみっこ祭り】 11月21日 中 11月28日 小 12月5日 高

○令和7年度の学校教育だより「きんもくせい」編集委員

富士見市の教育理念「学びあい 人がつながり 一人ひとりが輝く 富士見の教育」を基本とし、その実現に向けて編集に携わっていただきます。

《編集委員長》	関口 循子	関沢小学校校長
《編集副委員長》	中村 恵美	西中学校教頭
《編集委員》	井村 まき	水谷小学校教諭
	小林 彩乃	勝瀬小学校主幹教諭
	重田 廉	東中学校教諭
	粕谷 萌々子	勝瀬中学校教諭
	倉友 暁	富士見特別支援学校教諭



程での子どもたちの変化、小学校生活六年間の内、二年間、同じ教員が担任をすることのよさと気を付けるべきこと、この子たちにできることは何だろうと、自問自答する日々でした。

「きっかけ」

みずほ台小学校 教諭

武田 健大



昨年度、初めてのもち上がり
の学年を担当しました。これまでの教員生活では経験してこなかったことなので、どのように学級経営をしていくべきか悩みました。低学年から中学年に成長する過

まとめの時期に入った頃、「新年度に向けて不安を抱いている」と複数の児童から相談を受けました。授業に集中できないことや友だちとふざけすぎてしまうことが度々あり、今後、やっていけるか

くのか」というのが、私の教員としての不安な気持ちでした。そこで「自分たちでできることは自分たちで」を意識していくことになりました。

児童がこれから先、様々な課題と向き合っていく中で、「自分たちはどうなりたいのか」という意識をもち、成長していけるよう、支援をしていきたいです。そして寄り添いながら児童の思いや願いを汲み取ることを大切にできる学級をつくりあげていこうと思っています。

編集日記

『子供の負の情動を受け止められる教師』という立教大学講師・公認心理士の川上康則先生のコラムを目にした。

苦手に向き合うとき、脳は自分が不利な状況や不都合な立場に置かれたと判断し、嫌なエネルギーで体を覆いつくす。それによって、叫んだり暴れたりするファイト行動、顔を背ける・逃げ出すフライト行動、体がこわばる・固まるフリーズ行動をとることがあり、「3F行動」と呼ぶとあった。

「面倒くさい」「疲れた」は苦手に向き合うときに出る言葉。身を

守ろうとする反応で、周囲を振り

回す意図はない。その行動の背景

には「負の情動(不安・焦り・心配・

脅威・焦燥)」がある。これらの感情を安全に抱えていくには「安心感で包み込めるような大人」の存在が不可欠のことだ。

そのような大人とは、子どもの感情を落ち着いて受け止め、気持ちを言語化しながら、粘り強く支えることとあった。大人の一人として、「ああ、今がんばっているんだな。」と温かい心で見守りたい。

春を待つ二月頃、職員玄関前でキツキツの姿とつく音を見聞きした。職員と談笑しながら心が温かくなった。

(関口循子)